

# 出隅と入隅の補強

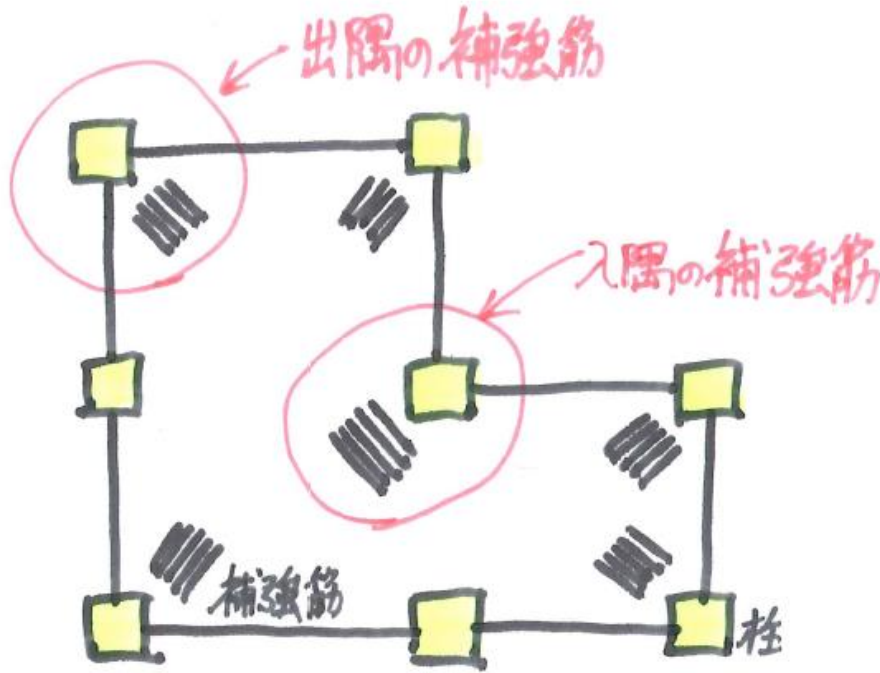


図 出隅と入隅の補強鉄筋

## 出題問題

平成21年度 問題8

鉄筋工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものを1つだけ、選択し記号を記す。

- 1 租骨材の最大寸法が2倍を超えない限り、(公財)建築技術教育普及センターとの過去問の使用許諾条件により、「会員講座」のみでの公開としている。
- 2 屋根スラブの出隅及び入隅の補強筋は、屋根スラブの上端筋の下側に配置する(用語解説:9.鉄筋工事①出隅と入隅の補強参照)。
- 3 D13とD16との鉄筋の重ね継手の長さは、D13の呼び名の数値である13に所定の数値を乗じて算出する。
- 4 ガス圧接継手の外観検査の結果、明らかな折れ曲がりが生じて不合格となった圧接部については、再加熱して修正した。

解答 (正解肢1)

- 1 × 主筋D22の鉄筋相互のあきは、呼び名の1.5倍以上((22/2) × 1.5 = 33mm以上)とする。
- 2 ○ 屋根スラブの出隅及び入隅の部分の補強筋は、屋根スラブの上端筋の下側に配置する(用語解説:9.鉄筋工事①出隅と入隅の補強参照)。
- 3 ○ D13とD16との鉄筋の重ね継手の長さは、D13の呼び名の数値である13に所定の数値を乗じて算出する。
- 4 ○ ガス圧接継手(用語解説:9.鉄筋工事①ガス圧接継手参照)の外観検査の結果、明らかな折れ曲がりが生じて不合格となった圧接部は、再加熱して修正する。